

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



3月の銅の概況及び4月の見通し (3)

■国内概況まとめ

◆自動車生産

生産動態統計によると、2月の自動車生産台数は、前年比+18.7%の69万8,550台。輸出は前年同月比+2.2%の34万334台。

◆自動車販売

日本自動車販売協会連合会によると、3月の自動車販売台数(軽除く)は、前年比+8.8%の32万9,918台。

◆住宅着工戸数

2月の新設住宅着工は、持家が減少したが、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比2.4%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では、前月比4.1%の増加となった。

○新設住宅着工戸数は、60,583戸

前年同月比2.4%増、10か月ぶりの増加

○新設住宅着工床面積は、4,718千㎡

前年同月比4.3%増、10か月ぶりの増加

○季節調整済年率換算値では、805千戸

前月比4.1%増、先月の減少から再びの増加

◆伸銅品生産

2月伸銅品生産量速報値は、5万2,770トン。前年同月比で4.1%減少した。2か月ぶりにマイナスへ戻した。14品目中6品目が前年同月実績を上回った。自動車関連の動きに伴う影響が目立った。昨年、認証不正問題発覚以降、減産していた国内の自動車生産が回復したのが良い方向である。北米向けも、今の時点では好調である。ただ、欧州やアジア向けに逆風が強まった。また、これまで車載向け半導体の需要が好調で伸銅品にもプラスに働いていたが、ここに来て車載向けの半導体の減速が見えてきた。半導体は、デジタル家電も回復が見えず、スマートフォン向けだけに支えられている。エアコンは、ルームエアコンが好転しているが、パッケージエアコンは建設関連の停滞・遅延やキャンセルの影響で伸びていない。

◆電線

前年比で-11.6%の46,600t。うち、国内向けが-7.8%、輸出用が-76.1%。

◆輸出

電気銅は、+2.1%の6万4,882t。スクラップは、-35.4%の1万7,971t。

◆輸入

電気銅は、-88.1%の117t。スクラップは、+47.1%の1万1,674t。

■見通し

◆自動車

2月の自動車生産が+18.7%。3月国内販売台数が前年比+8.8%。販売、生産共に増加。トランプ関税による自動車販売減への影響への警戒感が高い。

◆伸銅品

2月伸銅品生産量速報値は5万2,770トン、前年同月比4.1%の減少。2か月ぶりのマイナス。14品目中6品目が前年同月実績を上回った。自動車関連の動きが目立った。国内の自動車生産が回復した。北米向けも現時点では好調。ただ、欧州やアジア向けは逆風。車載向け半導体需要が好調で伸銅品にも好影響だったが、車載向け半導体の減速。デジタル家電の回復が見えず、スマートフォン向けが支えている。ルームエアコンは好転。パッケージエアコンは伸びていない。

◆電線

前年比-11.6%の46,600t。その内訳は国内向けが-7.8%、輸出用が-76.1%で、内需、輸出ともに減。今後を注視。

■スクラップ景況予想

銅建値が146万から154万へ上昇。これに伴い、多少出荷した模様。伸銅品生産は減。発生減から在庫薄。メーカーは原料高の中、入用の為に多少購入した模様。

■LME、為替予想

今月は以下の項目に左右される。

●米とトランプ大統領の関税政策

4月2日、貿易相手国の関税率や非関税障壁を踏まえ自国の関税を引き上げる「相互関税」として、日本には24%の関税を課すと明らかにした。また、個別の関税率を示していないすべての国や地域を対象に一律で10%の関税を課することも併せて発表、世界経済への大きな影響が懸念される。混乱は次回5月のFOMCまで続くのでは？

●ロシアウクライナ情勢

停戦条件で両者に隔たりがあり、欧州が納得していないのは確実。とは言え、他に停戦する術もない。今月中に解決はないのではないか？

これらを踏まえた今月の銅価格は、8,500-9,500ドル(セツル)と予想。ドル円値は140円~150円(TTM)台を予測。銅建値に関しては123万-147万円程度と予測。